

授業科目名	情報処理演習 2	担当教員	野津 直樹			
必修の区分	必修					
単位数	1 単位					
授業の方法	演習					
開講年次	1年 第3クオーター					
講義内容	<p>情報処理技術は現代を生きる上で欠かすことができない生活基盤の一部となっており、今や情報処理なくして社会生活は成立しないといつても過言ではない。</p> <p>本演習では「情報処理演習 1」に引き続き、本学における学修活動のみならず、本学卒業後の社会活動でも必須スキルとして求められる情報処理の基礎知識と基本技能を実践的に修得することを目的とする。</p> <p>その上で、「情報処理演習 1」と比較しても視野を広く持ち、企業活動やプロジェクトマネジメントの観点も取り入れながら情報処理分野を俯瞰することで、情報処理の基本的な仕組みと社会の動きの関係性を連環的に学びつつ、実技演習も十分に取り入れることによって、芸術文化観光分野の実務で求められる事務処理力ならびに制作力の向上も図っていく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理技術が自らの日常生活とどのように関わっているかを理解できる ・情報処理技術の基礎を知り、学修活動に効果的に取り入れることができる ・デジタルデータの特性を知り、プレゼンテーションに活かすことができる 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ～情報と通信の歴史～ 2. 情報演習室の効果的な活用方法 3. 生成AI時代のアカデミック・スキルズ 4. 情報処理分野のストラテジー 5. 情報処理分野のマネジメント 6. 情報処理分野のテクノロジー 7. 自動運転技術について考える① ～システム構成理解～ 8. 自動運転技術について考える② ～要素技術への分解～ 9. 自動運転技術について考える③ ～情報検索とまとめ～ 10. デジタルによるデータ表現 11. データビジュアライゼーションの基本 12. 情報処理技術と効果的なプレゼンテーション（最終発表） 					
事前・事後学習	各回の授業において、実技演習の具体的な作業内容と進捗等を振り返り、簡潔にまとめたリフレクション・カードを都度指定する期限内に提出すること。					
テキスト	特に指定しない。					
参考文献	適宜紹介する。					
成績評価の基準	授業への主体的な参加（60%）、プレゼン発表内容（40%）により評価する。					

履修上の注意 履修要件	事前に「情報処理演習1」を履修しておくことが望ましい。
実践的教育	
備考欄	「情報処理分野のストラテジー」単元においてゲストスピーカーを招聘予定。 なお、履修者数によっては、履修者の関心や特に必要とする技術等に着目して授業計画の構成の一部を適宜変更する可能性がある。